

新しい概念に基づく1回法上顎洞底挙上術

○渡辺 孝夫^{1,2)}, 浅井 澄人²⁾, 清水 治彦³⁾, 飯村 彰¹⁾, 鈴木 精一郎³⁾, 岩野 清史³⁾
神奈川歯科大学大学院口腔科学講座¹⁾, 日本歯科先端技術研究所²⁾, 関東・甲信越支部³⁾

One Stage Maxillary Sinus Floor Elevation using New Consideration

○WATANABE T^{1,2)}, ASAI S²⁾, SHIMIZU H³⁾, IIMURA A¹⁾, SUZUKI S³⁾, IWANO K³⁾

Department of Oral Science, Graduate School of Dentistry, Kanagawa Dental Un¹⁾, Japan Institute for Advanced Dentistry²⁾, Kanto-Koshinetsu Branch³⁾

I 目的：我々はイヌ前頭洞を使った1回法上顎洞底挙上術実験を行ってきた。その結果、補填材がなくても、後から増殖する新生骨造成量のピーク領域に HA インプラントを置くことで良好なオッセオインテグレーションを示す新生骨が長期残留することを観察した。また、昨年の本学会にて、この結果を基に考案した概念で埋入したインプラント補綴が実際の臨床でも耐ええることを報告した。今回は、All on 4 の術式に本術式を併用して6本のインプラントを埋入した3症例について、本術式の概要と臨床的有用性を紹介する。

II 症例の概要：症例1；42歳，男性。170cm，71kg。平成23年7月9日初診。主訴，上の歯が動揺して食事ができない。口腔内，左上257および右下7，左下4欠損。上顎の残存歯は高度の歯周病で保存困難，上顎臼歯部の骨量も少ないことから同年11月26日，上顎は残存歯抜歯，All on 4と本術式を施し，同日，暫間上部構造を装着した。症例2；52歳，女性。163cm，48kg。平成23年1月14日初診。主訴，歯の動揺と義歯が合わない。口腔内，右上67，左上1より7，右下256，左下47欠損，右下47，左下6インプラント。上顎残存歯は高度歯周病で保存困難，上顎臼歯部骨量が少なかったことから同年2月27日上顎は残存歯の抜歯，All on 4と本術式を施し，同日，暫間上部構造を装着した。症例3；41歳，男性。174cm，72Kg。平成23年10月3日初診。主訴，上の歯が動揺で満足に食事できない。口腔内，右上7，左上67。右下64，左下6欠損，上顎残存歯は高度歯周病で保存困難，上顎臼歯部の骨量が少ないことから平成23年11月26日，上顎はAll on 4と本術式

を施し，同日，暫間上部構造を装着した。

III 考察および結論：本術式による補填材なし1回法上顎洞底挙上術は，術式も単純で骨補填材によるリスクが少なく，骨量の少ない症例に適応されることの多いAll on 4で短所であった狭いanterior-posterior spreadを拡大し，長期的に安定した咬合が期待される手法として，有用であると考えられた。

(治療はインフォームドコンセントを得て実施した。また，発表についても患者の同意を得た。倫理審査委員会番号17000124承認 承認番号004号)